

経営比較分析表（令和2年度決算）

岡山県 里庄町

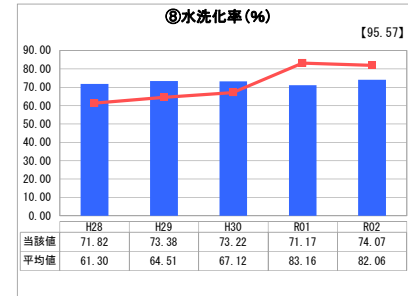
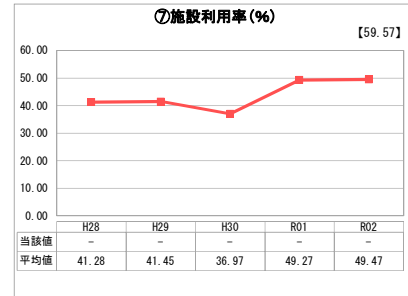
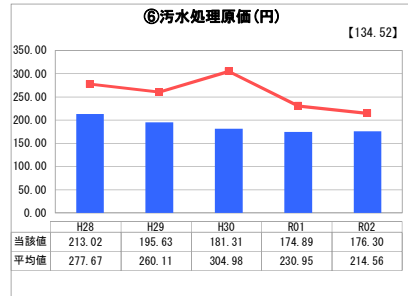
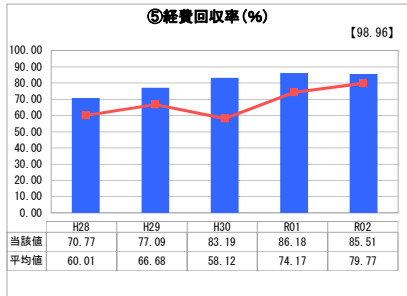
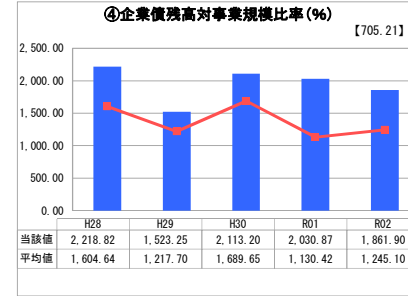
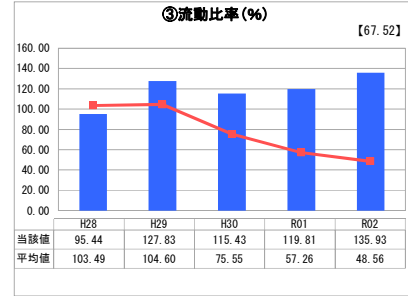
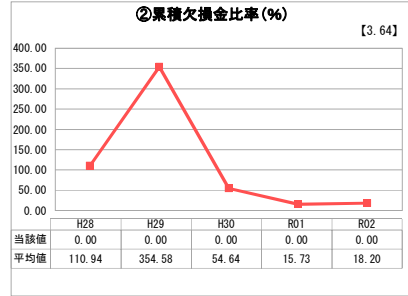
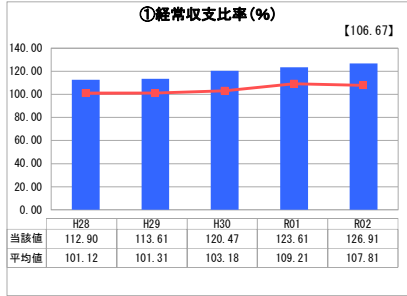
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	53.89	66.80	100.08	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,149	12.23	911.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,448	3.17	2,349.53

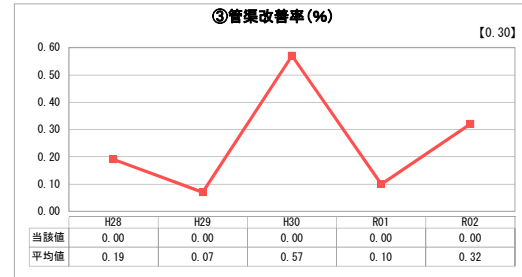
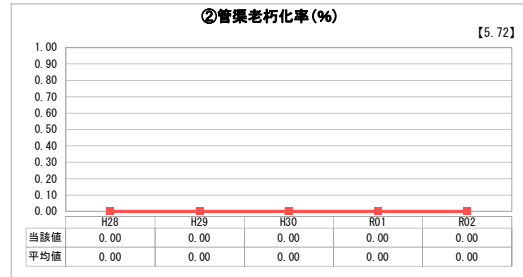
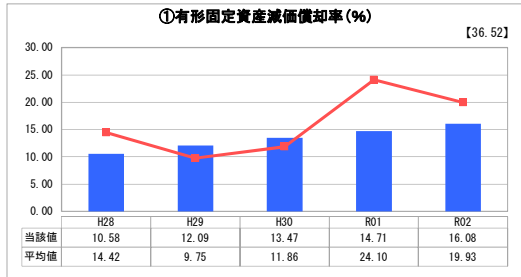
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金が無く、経常収支比率が100%を超えて毎年増加しているため経営状況は良好といえる。しかし、経費回収率を見ると、汚水処理に係る費用を下水道使用料で85%程度しか賄えておらず、残りは主に一般会計からの繰入金に頼っているのが現状である。この繰入金は起債償還に係るものが主であり、整備を進めて使用料収入が増加すれば削減することができる。また企業債残高は、下水道整備途中であるため大きく減少することは考えにくい、事業規模の縮小や使用料収入の増加により徐々に減少すると考えられる。

2. 老朽化の状況について

供用開始が平成16年と、近隣市町よりも遅いため管渠等は比較的新しく老朽化していない。また、有形固定資産減価償却率は類似団体と比較して低い水準となっている。現時点では設置後44年経過した施設が最も古いものであり、耐用年数と比較すると、まだ更新には早いと思われる。現状、施設の老朽化が著しい状況ではないが、今後の下水道整備等に応じて更新等の計画を検討する必要がある。

全体総括

里庄町は、平成16年から供用開始しており、下水道整備予定区域の約63%の整備が終わったばかりで、下水道普及率も約67%であるため、事業費を起債や一般会計からの繰入金に依存している。しかし、今後も管渠整備を進めることにより、有収水量や使用料収入の増加が見込めるため、更なる経費節減に努めると共に、水洗化率向上につながるよう、引き続き住民に対して下水道への接続をお願いしていきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。